

「ハツ場ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

平成 23 年 11 月 8 日（火）14:40:~14:55

利根川上流河川事務所 2 階大会議室

発言者：意見発表者 4

皆さんこんにちは、ただいま御紹介を頂きました●●と申します。元は、合併する前の旧鷲宮町の町長をやっておりました。そしていまは、青毛堀用悪水路土地改良区●●●を今就任をしているところでございます。そういう中で、体験をとおした中での意見発表をさせていただきたいと思っております。着座にてお許しをいただきたいと思っております。

ちょうど大利根町の利根川が昭和 22 年 9 月の 16 日未明に決壊をいたしました。その時に私は 5 歳でありました。ですけれども三つ子の魂 100 までもって言いますけれども、5 歳ですから一部始終、頭の中に異常事態ですからもう記憶に残ってしまったと言うことでございまして、決壊をしてから、鷲宮の私の家は葛西用水の隣に位置しているものですから、割と早かったのではないかなと思っております。そして、午前 9 時頃には庭にチョロチョロ水が上がってきたかと思っております。その当時は異常事態ですから親やお袋も親父も大声を出して、そういう異常事態に危機感を感じたんだと思っております。そして、半鐘が鳴っておりましたね、その当時は。ですから私は 5 歳で兄が小学校 2 年生位ですかね、それに上が長女が小学校 6 年生か中学校 1 年生位かなと思っておりますけれども、まあ 6 人兄弟の私は下から 3 番目です。そういう中で親たちは、子供がたくさんいたもんですから、水に飲まれては大変だと言うことで、座敷に上がってると、そういう風にいわれました。子供ながらに危機感を感じておりますから、姉さんたちから順番に上に上げられて、座敷にいたわけですから、どの辺まで水が来るか分からないということで、もちろん小さいけれども親の手助けをしながら、畳を上げたりなんざりしておりました。そういうことをしながら、どんどんどんどん水が増えてきて、11 時頃にはもう既に座敷の畳のところまで上がって来てしまったということで、そして更に上に逃げろということで 2 階に逃げて遠くを眺めていたんですけれども、木が無かったもんですから、今なお葛西用水が江戸時代に利根川として東京湾に流れている源流が、今の葛西用水ではないかと言われていたところでもございまして、水の流れが速い、そこで、馬が流れていく、泳いでいくんですかね、流されていくのをですね確認、私も目で見ました。その後、牛も流れていった。あるいはタンスが流れていくのはもう数多く見ましたね。それから家具もいろんなものが流れていくのを目のあたりにして、この脳裏にもう焼き付いてしまった。そういう中で、家屋も 2 件ほど流れてきました。家の裏に 2 件流れ着いて、最初の流れてきた家は後から大きい家が流れてきたもんだから、それにぶつかって潰れてしまったということですね。後から流れてきた家は、水が引けた後に解体をそこでしたということで、家族の人も家と一緒に乗ってきたというのが現実だったです。そういう状況を見ながら育ちましたから大変、水に対しての恐怖感も肌で感じております。そして青年になって、二十歳以降になって消防団に入りました。その消防団に入っているいろいろと火災だけじゃなくて、水防団の関係のほうも仕事として勤めるようになりましたから、利根川の土手で水位がどれくらいきた、今年は 6 m くらいまで来たかと思っております。そういう中で今年は出勤しなかったのではないかな、聞いておりませんから。ですけれども、そういう中で水防団として利根川の土手へ来て、あの増水した水を見たら、恐怖感で、信じられないほど恐怖感に襲われて、夕方であれば一人では土手は歩けないのではないかな、利根川の土手歩けないのではないかないうぐらいな恐怖感を抱いたことでもございます。その後、縁あって鷲宮町長として町を仕切る時期が来まして、その間消防団とお付き合い

をしなが、利根川が増水をし、私も驚宮町を10年預かりましたけど、その10年の間に利根川が増水をして、土手の住宅があるほうで、そこへもくもくと水が湧き出してきれいな水が出ているうちは大丈夫だよ、なんとか大丈夫だろう、それから濁った水が出てきた時にはもう危険だということを聞きました。その2回ほどございましたけれども、1度はですね消防団長の方から、切れてしまうかもしれない、危ない、そういう情報を頂いたことがあります。ですけども町村長として、住民に知らせるべきか知らせないでそのままもう少し待つべきか非常に思案に困ったことが一度ありまして、決壊をしないんだから情報を今流すとパニックが起きてしまうと、いうことでそのまま置いてですね、何とか大丈夫なようであったと、決壊をしたということは聞かないから大丈夫だったということ、私は、住民に知らせないで良かったな、これを知らせていけば住民はパニックを起こして、大変なことになったのではないかなと、そのように私は思っております。いずれにしても利根川が増水しますと地下に水の水脈というのがあちこちにあるらしいんですね。その水脈を水が増水するとその水圧でおされて土手のすこし離れた方で、利根川の土手の離れたところで、もくもくと出てしまう。そういうことが、私も消防団の方から聞いたことがございまして、これはなるほどな、土手はいくらスーパー堤防を造ってもその水脈がズーッとつながってれば、離れたところでもくもくと水が出てしまうと、そういう危険性があるなことを、改めて町村長をやりながら認識をいたしました。そういう中で、現在八ッ場ダムが民主党に政権が代わって、即中止というような話が伝わってきて、私も驚宮町長をやりながら埼玉県町村会の政務調査会長を就任しておりましたから、企業を代表して、町村会を代表して国土交通省に陳情に参りました。そのとき、前原国交大臣は、居ましたけれども、すぐ出て行くとのことで、会えずに、三日月政務官に事情を町村長と一緒に話をして、ダムの必要性について訴えてまいりました。その前に、町村長の時代には、利根川の行田の上流、河川の事務所ですかね、行田堰ですかね、あそこカメラを通してシミュレーションを、利根川が決壊したときはどういう状況で流れてくるかというようなどれくらいの時間がかかってくるのか、そういうのをシミュレーションをしたこともございます。これは関東地方整備局の皆さん方は調べれば、ちゃんとわかるかと思えますけれども、そのような経緯をして非常に水に対しての危機感を抱きながら訓練を致したことも事実でございます。また、いまは、今般のメディアとかニュースで、大きくタイの洪水の被害は深刻なものであるというようなニュースも報じられております。住民の生活の困難はもちろんですけれども、産業界にも大きなダメージを与えております。まあ、1回決壊をすると、そのような大きな災害を地域住民にもたらして、大きな損害がでてしまいます。ですから、私は、シミュレーションで言うんですかね、評価ってんですかね、そういうものもやって、ダムの必要性がうたわれて発表されておりますけれども、まあ、1日もはやくですね、上流に大雨が降った時のですね、それをおさえる重要性、必要性を感じながら、八ッ場ダムの早期実現で言うんですかね、望んでるところでございます、まあ、やっぱり雨水のですね、そのおさえることが最も重要な期待をできるものが上流にダム建設ではないかなと思っております。それには、地元の住民の理解を得た上で、関係地方自治体との負担とか協力もあります。そういう中で、半世紀以上にわたって、建設を推進してきた八ッ場ダムの建設工事の早期再開とダムの完成を是非、1日も早く造ってほしい、そういう願いで、意見発表とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひします。

以上